

# 日中韓フォーサイト事業の事後評価の実施について

## 1. 趣 旨

### (1) 「日中韓フォーサイト事業」の目的

日中韓フォーサイト事業は、我が国と中国・韓国の研究機関（以下、「拠点機関」という。）が連携して世界トップレベルの学術研究、地域共通の課題解決に資する研究及び優秀な若手研究者の育成を行うことにより、3カ国を中核としてアジアに世界的水準の研究拠点を構築することを目的とする事業で、先見性や将来への展望等を意味する” foresight” の名を冠しています。

本事業においては、3カ国の拠点機関が、「共同研究」、「学会合（セミナー）」、「研究者交流」を効果的に組み合わせて実施するものとします。

なお、本事業による支援期間終了後も、拠点機関において、アジア地域における世界的水準の研究拠点として、自立的に継続的な活動を実施することが期待されています。

### (2) 事後評価の目的

日中韓フォーサイト事業は、大規模かつ長期間にわたる事業であり、事業運営の透明性・公正性が特に強く求められていることから、その実施状況及び成果を可能な限り公表することが必要です。

このため、募集要項に示されているとおり、本会では、実施期間が終了した課題について、事業によって得られた成果を明らかにするため、事後評価を実施します。

評価資料及び本会からの評価結果は、原則として公開します。

(参考) 日中韓フォーサイト事業実施要項（一部抜粋）

第5条 本事業は、別に定める方法により、中間年度及び終了時に評価を行うものとする。
---

## 2. 対 象

前年度に実施期間が終了した研究交流課題

## 3. 事後評価の方法及び評価項目

### (1) 評価の方法

事後評価は、日本側拠点機関から提出される評価資料に基づき、まず、学術的な観点からの評価を3名の国際事業委員会書面評価委員による書面評価にて行い、その後、国際事業委員会における合議により総合的な評価を行います。

その後、3カ国の実施機関（日本学術振興会、中国国家自然科学基金委員会（NSFC）及び韓国研究財団（NRF））間において、評価結果を交換します。

### (2) 評価項目

これまでの研究交流活動による成果、交流実績・体制、今後の展望について評価します。主な評価の観点は以下のとおりです。

① 世界的水準の研究交流拠点の構築状況

- ・ 日本側拠点機関及び相手国拠点機関の交流により、世界的水準の国際研究交流拠点となりうるような学術的価値の高い成果があったか。
- ・ 相手国との研究交流の成果として、国際共著論文等が発表されたか。
- ・ 本事業により得られた成果の、社会への還元があったか。
- ・ 相手国経費による来日数をはじめ、対等な費用分担による研究交流（共同研究・セミナー・研究者交流）がなされたといえるか。
- ・ 事業終了後も世界的水準の国際研究交流拠点として、継続的な研究交流活動の実施が期待できるか。

② 若手研究者育成への貢献

- ・ 若手研究者が身につけるべき能力・資質等の向上に資する育成プログラムが実施され、効果が認められるか。
- ・ 次世代の中核を担う若手研究者が、交流相手国との研究ネットワークを構築したといえるか。